

Ⅷ 校章・スローガン



- ☆ 昭和59年4月の開校に、広く一般より公募した中から、杉崎博司氏の作品に決定。
- ☆ 周囲を山に囲まれた環境の中にある学校のために、山を大仁の「大」の文字（星形）で表現し、中央に北の文字を図案化してある。

スローガン

北っ子は 人にも 物にも 思いやり

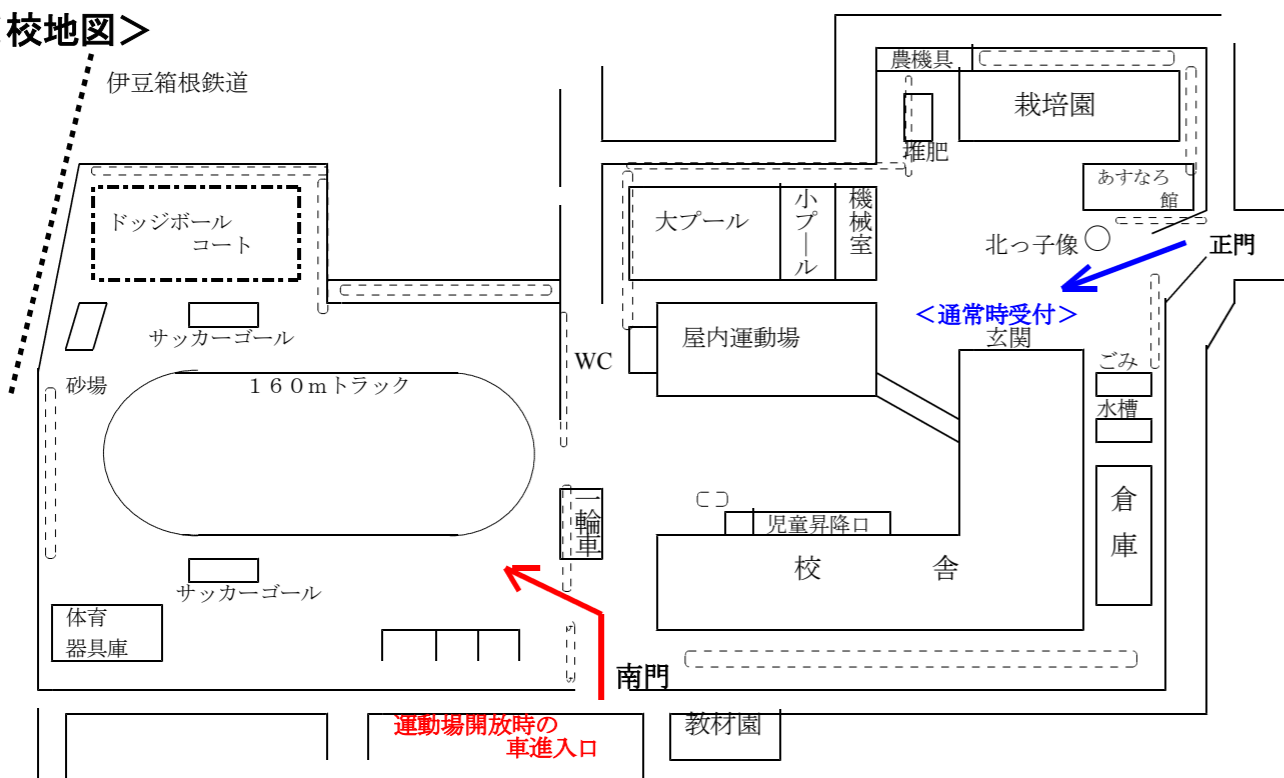
Ⅸ シンボル像「北っ子」



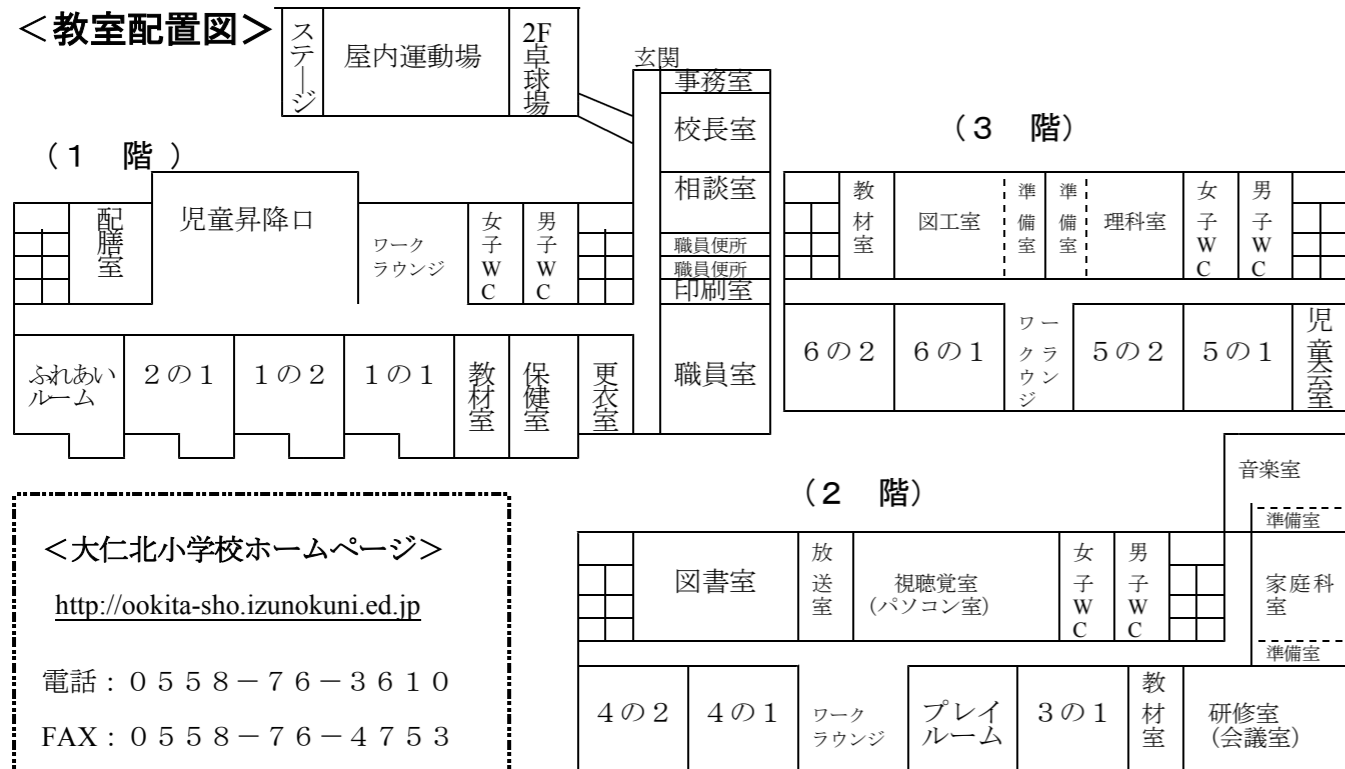
- ☆ 平成2年3月3日 大仁北小学校で6年間学んだ最初の卒業生を記念してPTAより寄贈されたもの。
- ☆ 制作 鈴木 丘 氏（守木在住）
- ☆ 題字 増島 利夫 第2代校長
- ☆ 全校の子ども達から募集して命名
- ☆ 「仲良く、元気に、学び合い、互いに支え合う児童であるように」との願いが込められている。

Ⅹ 校地図・教室配置図

<校地図>



<教室配置図>



<大仁北小学校ホームページ>

<http://ookita-sho.izunokuni.ed.jp>

電話：0558-76-3610

FAX：0558-76-4753

平成30年度



学校経営書



校歌

作詞 南沢 純三
作曲 関野 幾夫

一
小さな種のひとつぶが
やがてはきれいな花になる
みどりの風に 光る窓
富士山よりも 雲よりも
おおきなぞみ 胸にたく
大仁北小学校

二
狩野川そだちの あゆの子は
明るく元気だ なかよしだ
天城の峰に わきだして
太平洋へ そそぎこむ
このすきとおる 水のいろ
大仁北小学校

三
やさしいところは かよいあう
人にも鳥にも 草木にも
しつかり大地 ふみしめて
自分の道を 一歩ずつ
すすんでいこう まっすぐに
大仁北小学校

伊豆の国市立大仁北小学校

〒410-2317

静岡県伊豆の国市守木312番地

TEL 0558-76-3610

FAX 0558-76-4753

HP <http://ookita-sho.izunokuni.ed.jp/>

I 本校の沿革

☆校名 伊豆の国市立大仁北小学校
 ☆所在地 静岡県伊豆の国市守木312番地
 TEL 0558-76-3610
 FAX 0558-76-4753



☆沿革
 昭和54年10月 大仁小学校学級増対策協議会
 昭和57年11月20日 新設小学校の校名を大仁町立大仁北小学校と決定
 昭和58年 1月31日 新設小敷地造成工事起工式
 6月7日 新設小建設工事起工式
 昭和59年 4月1日 大仁町立大仁北小学校開校
 4月3日 大仁町立大仁北小学校開校式
 4月24日 屋内運動場、プール工事起工式
 7月10日 プール完成 同16日プール開き 校歌制定、作詞・南沢純三、作曲・関野幾夫
 昭和60年 4月30日 自転車置場完成
 8月31日 防球ネット、運動場西側・南側に設置、シーソー設置
 8月31日 防球ネット、運動場北側・住宅側へ完成 クライミングはん登棒設置
 9月30日 運動場散水施設完成(4基)
 昭和62年 3月6日 校旗作成
 3月31日 防球ネット住宅側10m延長・体育館前通路塗装
 昭和63年 6月25日 石灰室の増設・運動場西砂場造成 校舎西入り口に庇設置
 6月30日 体育器具室裏に防球ネット増設
 平成元年 5月24日 屋内運動場表示文字設置
 6月10日 プールサイド塗装
 7月25日 研修室冷暖房機設置
 8月25日 防球ネット設置(運動場南東側)
 平成2年 3月3日 1,2年教室サンルームクッション改修
 8月20日 農園水道設備設置、理科園壁工事 北っ子シンボル像設立・防球ネット設置
 焼却炉屋根増築・体育館周り溝蓋布設 教室内掲示板設置・堆肥小屋、遊歩道設置
 樹木植樹用石垣設置(一基)
 平成3年 8月22日 職員室東側固定窓開閉式に改修 校長室前体育館通路用引き戸サッシ開閉式に改修
 平成4年 2月28日 樹木植樹用石垣設置(一基)
 8月26日 職員室エアコン設置
 平成5年 4月7日 児童用靴箱一部取り換え
 6月26日 創立十周年記念式典と記念誌の発行
 平成6年 3月10日 バスケットリング設置
 4月1日 田京停車場が学区に編入される
 文部省「道徳教育推進校」指定をうける(平成6・7年度)
 平成7年 2月10日 体育館用レクチャーアンプ購入
 10月31日 文部省「道徳教育推進校」本発表(参加者294名)
 平成8年 8月20日 浄化槽埋め立て工事
 平成9年 2月10日 運動場用放送施設設置
 平成10年 5月20日 プール及びプールサイド塗装と整備
 平成11年 8月 音楽室床張り替え・正門開閉式扉取り付け
 平成12年 3月 農機具庫・堆肥小屋の新設 一階展示室と廊下の仕切りにアコーディオンカーテン取り付け
 5月 体育館通路側壁に、風雨防止の透明硬化物取り付け
 6月 視聴覚室に、コンピュータ10台設置
 8月 高鉄棒下砂場新設
 平成13年 3月 視聴覚室(コンピュータ室)に警備保障(セコム)設置 畑の東側に水道蛇口設置
 平成14年 4月 体育館屋根葺き替え
 8月 音楽室非常階段設置
 平成15年11月 開校20周年記念式典
 平成17年 4月1日 大仁町・韮山町・伊豆長岡町3町の合併による伊豆の国市の誕生に伴い、伊豆の国市立大仁北小学校となる
 平成18年 8月 給湯室を相談室に改装 図書室にエアコン設置 家具類転倒防止工事施工
 平成20年 6月 1階男子トイレにシャワー室設置
 平成22年 8月 グランド南門改修整備
 平成23年 5月 音楽室エアコン設置
 平成24年 8月 教室扇風機取付工事(各室4台設置)
 平成25年 8月 正門扉取替工事
 平成26年 9月 校舎外壁塗装工事
 平成27年 8月 ジャンブルジム・滑り台交換
 平成29年 3月 防球ネット補修工事

II 地域の概要

純農村地域であった当地区は、道路の整備・住宅地の開発等により住宅の建築が急速に進み、児童数が急増した地域である。現在は、少子化の波にも歯止めがかかり児童数も安定してきている。地域的には、老人会の自主的な下校時の見守り活動や、保護者の読み聞かせボランティアなど、学校に協力的な方が多いのが特徴である。
 道路事情は、国道136号線をはじめとして交通量の多い道路をかかえ、児童の登下校路は狭く、交通量は相当なものである。しかしながら、幸いにも交通事故の発生件数は少ない。

V 教職員一覧

職名	氏名	職名	氏名	
1 校長	平野 好一	15 非常勤	土屋 恵子	
2 教頭	奥藤 顕	16 非常勤	勝谷 真子	
3 教諭	高橋 尚志	6主	17 養護教諭	三枝 佳世
4 "	宇田実奈美	6	18 事務主事	野毛 信孝
5 "	昆 礼子	5主	19 支援員	永楽 裕司
6 "	平松 統子	5	20 支援員	伊奈 緑
7 "	菊地 文子	4主	21 市事務	西村 千尋
8 講師	駿藤 靖子	4	22 図書館司書	渡邊 寿子
9 教諭	佐藤 光	3	23 用務員	安田八重子
10 "	石橋 光保	2	24 ALT	ヨシ ライデル
11 "	高橋 達也	1	25 スクールカウンセラー	渡邊 澄子
12 "	山本 春美	1主	26 特別支援学級担任	前田みどり
13 "	藤井 博之	教務		
14 教諭	原 寿志	担外		

VI 児童数及び学級数

学年	組	男子	女子	合計	学年計
1年	2	12	9	21	42
	2	11	10	21	
2年	1	15	20	35	35
3年	1	15	17	32	32
4年	1	8	13	21	43
	2	9	13	22	
5年	1	11	12	23	47
	2	12	12	24	
6年	1	12	8	20	41
	2	12	9	21	
合計		117	123	240	240
10 学級					

H30.4.1 現在

VII 研修全体構想

本校では自分の思いや考えを表現することに抵抗を感じている子どもが少なくない。自信をもって自分の思いや考えを表現したり、自ら他に働きかけたりすることができる子どもや将来社会に出た時にこのような力を発揮できる子どもを育成していく必要がある。

研修テーマ
 伝えあい学びあい「できた」「わかった」の達成感が味わえる授業をめざして

仮説1：仲間と解決したい適切な課題を設定すれば、子どもたちが対話をしながら学びあうことができるだろう。

手立て 問題解決に必要な授業形態を設定して、どの子にも活動する機会や発言できる機会を意図的に設ける。

仮説2：みんなの考えを明確に示せば、考えを伝えあい、更により考えが生まれるだろう。

手立て ホワイトボード、画用紙など、それぞれの子が自分の考えを書く用具を準備する。

★「伝えあい学びあう」とは
 仲間とかかわり合うことを通して、これまでの自分にはなかった見方・考え方に出会い、新しい見方・考え方が形成されたりしていくような学習活動、つまり「協同的な学び合い」と捉える。

仲間とかかわり合うことで、一人では気付けなかったことに気付くことができる。自分の価値観、ものの見方・考え方を豊かにすることができる。ここに協同的に学び合うことのよさがあり、価値がある。仲間とかかわることを通して、「そうか!」「わかった!」「わたしはこう思うんだけど・・・」「なぜ?」というような気付き、発見、納得、葛藤、疑問などが湧き起こり、これまでの価値観が揺さぶられ、新たな価値観が生み出されていくような学習活動をめざす。

★「達成感が味わえる授業」とは
 学ぶことによって変容していく自分、成長していく自分を感じ取ることでできる授業、つまり「学びを実感できる授業」と捉える。

学習を始めた(スタート)時点と終えた(ゴール)時点とを比べて、「こんなことがわかる(できる)ようになった!」「こんなときは、こうするといいんだ!」というように、自己の変容や成長を感じ取ることができるような授業を構築していく。
 実感(達成感)とは、自分自身が感じるものである。子どもたちは学びの実感を得ることによって、学ぶことの大切さに気付いたり楽しさを感じたりすることができるであろう。学びの大切さ、楽しさ、喜びを体感することは、主体的な学びや次への学習意欲の向上、確かな学び、生活化、転移する学力へとつながっていくものと考えられる。

